



大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成21(2009)年
6月号
通巻 466号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

発行日 平成21年6月23日
発行所 大倭出版局
〒631 0042 奈良市大倭町1の12
 ☎(0742)44 0015
印刷 大倭印刷製
定 価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
振替口座 01050 6 67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



吉野の夕日 高橋 良美さん撮影(文・3頁)

戸録

昭和30(1955)年9月1日発行 第16号『大倭』より

夫婦は対立的別個の存在ではなく、表裏的団体である。男は表の立場、女は裏の立場にあり、この意味に於いて男女同権はなりたつ。

奈母太加天腹 拍手合掌

神示

家庭の調和団欒は、 夫婦一体性の自覚から

法主 矢追 日聖
(満43歳)

- 大本宮を訪れて来る婦人達の家庭相談のうちの多くは、夫婦間に起っている色々な問題である。その主なるものは、
- 一、主人が家庭外に二号さんを置いて世帯を二つにする。その為に夫婦間の情は薄らぐし、経済的にも不都合なことが出来てくる。
 - 二、主人が深酒に陥って家庭をかえりみないこと。
 - 三、主人が余りにも気魄きぼくがなく人が好すぎて、何事も社会の人におくれをとる。
 - 四、世間の人からは良い方だと言われるが、家庭の中では暴君で困る。
 - 五、仕事にことよせて、奥さんをごまかし、外で勝手な振る舞いをする。
 - 六、嫁と姑の仲たがいから起こる離縁問題。
 - 七、子供の放蕩に泣く母の訴え。

等である。

中でも六、七はさておいて、五までの問題がその殆どである。家庭内の問題としては一笑にふせない重要な事柄である。夫婦揃って離婚の相談にみえる勇気組もあるが、これ等はかえってあとが親密の度を加えて従前より仲睦しくなるという、めでたしめでたしが多い。又、女のか弱き腕一本にて生計を保ち、長く病床に臥す主人の再起を願って来るけなげな婦人も少なくない。

こうした現実が起こりつつある家庭問題の解決は、宗教家をおいてどこに求め得られよう。

ここに列挙した問題は、婦人の一方的な言い分であるから、全面的にそれを真実として受け取る訳にはいかない。だが訴えている主婦その者の心境に於いては、夫婦不和の責任は夫にあると決めているながら、何とかして結婚当時のような睦ましい仲に復帰したいという真面目さは充分に察知することができる。

こうした種類の相談を婦人達から受ける度によく感ずることが、概して婦人は社会の実状について案外に暗いことと、夫婦の中であるにも拘わらず、事の白黒や善悪の色彩をはつきり決めたがる悪癖のあることである。大抵の方は、「自分は申し分のない善人である。にも拘わらず夫は悪行を積む人非人だ」といった結論を要求しているように見受けられる。もし、こうした結論を出せば、婦人は待つてましたとばかり百万の味方を得たように一時的な喜びを持つことは事実なんだが、かえってそれは夫婦間の溝を深めるに役立つのみである。

新憲法による基本的人権の尊重から男女同権論が唱えられ、これが今の世代の常識となった。財産にしても、夫婦別々にその所有権を認めている。一応は至極合理的に見えるけれども、こうした法

がある為に、夫婦間の精神生活の面に少なからず不幸不和を招来する原因の一つにもなっていることを見逃す訳にはいかない。

社会は時代的に如何に変遷推移の道を辿つても、夫婦一体性は人類発生の大古より今日に至るまで、一貫不変の真理であることは、天地の大法によつて定められている。即ち、神の法である神法に逆らつて真の幸福は絶対に有り得ない。

「人間」と言えば、男女別々に扱つては論ぜられない。男女切り離して考えれば、「人間」の半分の存在である。結婚は完全な「人間」としての出發である。夫婦としての一体的自覚は、結婚の時にはつきりと堅持しなければならぬ。この一体的自覚というのは、車の両輪の如く、或いは両手、両脚の如き関連性を指しているのである。

夫婦は原則的に、「夫が」「妻が」といった対立的な精神を根本的に消滅し、「夫と」「妻と」といった抱き合つた心境を日々の生活のすべての根幹として躍動していなければならぬ。

そこで大事なことは、お互いの立場、お互いの持ち場を、お互いに最も深く理解し合い、最も強く信頼し合うことである。これは一体なるが故であつて、もし夫が妻の無能を論じたり、妻が夫を罵つたりすることは、お互いの恥と心得るべきで、子供はどちらの子だと争つてゐる愚に等しいものだ。

家庭内にあつて家庭を守る重要な責任を持つてゐる主婦に、さらに一つ心得てほしいことは、常に家庭外に交渉を持つ夫の精神的慰安と、明日の活動を可能ならしめる心身の糧を十分に与えられることである。これがやがては夫婦の調和、幸福な家庭を生み出す重要な原因の一つである。奈母太加天腹は、こうした心の世界を生成する言霊ことだまである。

(昭和30年8月17日記)

再録

同年12月1日第19号『大倭』より

法主様より聞く

霊動のおはなし(二)

霊動すると神霊は憑かつてくるものですか？

神経運動は非常に興味のある、そして健康にも大変効果あるようにお聞きして心強く存じます。

しかし、私達の見えていて感ずることですが、どうもただの神経運動とも思われぬ方もあるようです。

話をしながら霊動している方も見受けられますが、又中には「何々の神、フウー、イエー!!」などと普通ではあんなまねは、人様の前で出来た芸じゃないと思ひますがね。こんな型でもやはり神経運動に属する霊動と言えるものですか？

法主 そんな種類の憑依現象ひきよひも時にはあるが、これも一種の神経運動であり、心霊現象とも言える。けれど、こうした状態の時自己意識が多分に現れてくる。自己意識によつて起こる現象を神様が乗り移つたと信じる者が多い。

正規の霊動から入り、始めはただ神経運動の程度で、信仰心がなくとも日が経つにつれて段々精神統一に入る場合がある。これからさらに一歩前進すると入神状態になるのであるが、ここからの状態はその人によつて千差万別である。ちよつと面白い二、三の型を参考までに挙げてみよう。

普通の激しい手を振る霊動から、次第に静かになつてくると、無言にして合掌や手をくるくると動かして挨拶する型、神にも礼拝の型、抜きの型等を行う者。又笛吹き・太鼓を打つまねを

する者。

おころび、おたけびをする者。これはちよつと乱暴な方で、靈動が段々激しくなるにつれて横に倒れてしまふ。そして靈動しながら儀を横に転がしたように向こうへと急速度に進む。或る所まで行けば、それが又転びながら戻つて来る。こうした状態が大抵一週間程続く。終わりに方になると、チヨコンと坐り、口だけが音を出さずに動き出す。多くの人は最初に「ウ……」と長く何回も繰り返し、次に「ブ……」と出てくる。これも一週間程かかつて、「ウブスナ」となる。靈動しながらおもむるに立ち上がつて、優雅な舞いがはじまり、和歌を口にしながらその節に合わせて手足を動かす者。この場合、両手は軽く握つて手鈴をさばいている。終われば坐つて挨拶をする。

靈動がしばらく続くと、その手先を先ず自分の体の弱い所へ持つて行つて軽く叩く者。これは十人が十人必ずやる。この場合、その靈動している者の前に誰かを坐らせると、靈動しているその手が自然に前の人の体の所へ行き、その人の弱い、患つてゐる所を盛んになで回す。靈動が激しくなるにつれて、側に居る人を倒して頭から足まで指圧する者。これは大分体を使うが、靈動が段々激しく汗が額からばたばたと落ちていても拭くことができない。一巡終わると自然に止まる。大体一回終わるのに二時間を要している。

靈動しながら自己問答を繰り返し、その中に人の道、神の道を自ら悟らされていく者。この型はちよつと上級に属し、宗教的立場からは至極望ましいものである。

今お話のような靈動の型を実際に見たいもので

すね。法主様は今何処かで御指教されていられるのですか。

法主 関西では「おがみ屋」の養成になるので御免だよ。今日の話はこの辺で打ち切つておこう。

漢字や送り仮名は、現代風に改めています。(続く)

表紙写真によせて

帰幽祭に來られた得田壽之さんが追場彦の森(法主さんが長曾根日子命の墳墓の地と言われる所)へ行きたいと道を尋ねた。後で、道に迷つた、転ぶわで行き着けなかつたという話を聞いた時は、正直な話、得田さんの年を数えて心配した(まあ、そつだつたかもしれないが)。次に藤本宏秋さんが、読み聞かせの活動をしている方に、『倭伝承 長曾根日子命』の本をあげたいのであれば欲しいと依頼があつた。ついでに私も読み直した。

それが、その本を作られた栗山美智子さん等に直接お話を聞く座談会をするという流れにつながり、長曾根日子命は今も栗山さんの胸に生きてゐることを知つた。法主さんがその本を作ることに對して、「こういう手があつたんか」と言われたとか、大倭神宮で本をお供へした時、腹痛を起こして霊界人に「今までの自分達の苦しみを味わえ」と言われたという話も初めて聞いた。

何となく長曾根日子命……という気の動きかなあと、4月の文化行事は始め、久しぶりに長曾根日子シリーズで?との案があつた(都合で別の計画になつたが)。

以前、「邪馬台国 富雄川流域説」という講演会に参加したことがある。法主様が邪馬台国と結びつけられたことはないが、「長曾根の国」と重なる地域に古代の重要な拠点があつたという観念にひかれたからだ。講師の方に資料がほしいと手紙を出した。すると正に、自費出版のための印刷会社を探していたところだと、結局、『邪馬台国とは何か』(前川一武著)を大倭印刷で作らせてもらう成り行きになつた。神武東征・長髓彦……等々、法主様からよく聞いた話が、かなりの程度まで共感を持って読める内容なのである。著者にも法主様の話を伝えると、その奇縁に驚かれた。

その頃また、高橋良美・見田暎子さんが吉野の丹生川上神社等へ行つた時、偶然、「鳥見靈時下小野榛原」という石碑に遭遇したという(写真)。靈時「まつりのにわ。祭場。



昭和15年、皇紀2600年の国家的行事として神武天皇聖蹟決定というものがあつたそうだ。即位4年後、皇祖天神に報恩感謝のご親祭をされたという「鳥見山中」の候補地としては4ヶ所ほどが声を上げたとのこと。その内の一つらしい。

法主様は大倭神宮こそがその地であることを顕彰する好機と考えられ、「金鷄靈時鳥見山中聖蹟」の石碑を建立し(大倭神宮に行つた時、見直して下さいね)、考古学を学んだ者として学問的な姿勢で『金鷄の黎明』を著された。その本では他の候補地の否なるを論じておられるが、近年では何ヶ所もあるのは結構なことだと話されていた。

表紙写真は、吉野山中の石碑の写真を見せてくれた折に、隣にあつたもの。何となく記念として、表紙にすることにしました。(岸野春子)

こもれる魂魄の地を訪ねて (第34回)

青森市 高橋 末子

法主様との出会いから十八年経ちました。フリースクールをつくらうと買い求めた、青森県中津軽郡西目屋村大字大秋字都谷森の地からすべてが始まりました。(『おおやまと』H6・4月号参照。法主様によると縄文のアイヌの長の塚のあった址だとのこと)

平成六年五月二十九日、電話で法主様が弘前にいらっしやることを知り、天にも昇るうれしさでした。宿泊先の小堀旅館を訪ね、かあさん、見田暎子さん、高橋良美さんにもお会いし、翌日、西目屋村の「登矢守さん」(アイヌの長につけられた名前)にきていただきました(写真)。



①

西目屋村は県で一番小さな村ですが、白神山地で有名です。最近では定額給付金を全国で一番早く支給したことで話題になりました。

法主様に登矢守さんの場所に来ていただいた時、今まで疑問に思っていた登矢守さんと私にどんな

ご縁があるのかお聞きしました。法主様はそれには直接答えられないで、私をしばらく見て、長慶天皇(南朝第98代天皇)が出てこられたとおっしゃいました、ますます頭が混乱してしまいました。私の先祖は長慶天皇に仕えて、吉野から津軽に来たということでした。

長慶天皇についての資料等を調べました。青森だけでもその量は膨大なものです。旧中津軽郡や南部地方の地名に、長慶天皇に関わりを持つものが非常に多いのです。

法主様の長慶天皇に対する思いは、『おおやまと』の昭和六十三年十一月(平成元年一月号)に書かれてあり、感慨深いものがありました。(写真と同じ平成六年五月上皇宮にて)

平成二十一年四月二十八日の今日、長慶天皇を祀っている上皇宮を訪ねて旧相馬村(現弘前市)に行ってきました。一昨日の雪と変わり、青空で気分も良く、古い大木の切り口から一本の桜が咲いていました(写真)。ふと吉野が思い浮かびます。上皇宮でナモタカマノハラの挨拶の後、車を五分位走らせ、村社の「石戸神社」を訪ね



②

ました。この神社は古いアイヌの女酋長(メノコさん)が大同二年(八〇七年)、坂上田村麻呂の軍に討たれた場所です。メノコさんに挨拶を終えて、ふと空を見上げたら、そこには白い衣をまとった美しい岩木山の姿がありました。

見田さん、高橋さんには北海道二風谷(二風谷)の青木愛子さんに会わせていただきました。また静内のシヤクシャインの祭りに連れて行っていただきアイ



③

又の方々の生活・歴史・宗教を教えてくださいました。何度か愛子さんを訪ね、帰る時、寝具を片付けようとしたら、そのままにしておけ、布団があると末子さんがまたここに帰ってくるような気がする。もう来ないと思うとさびしい」と、この言葉の温かさに思わず涙してしまいました。そしてこれが生前の愛子さんの最後の言葉となりました。

愛子さんの娘・ユサ子さんの孫の小学校の先生が、私も大変お世話になった方の息子さんであったという奇縁もありました。

兄が他界した翌日、ユサ子さんから「パパ(愛子さん)が夢に出て、末子さんがかわいそうだと言っているけど何かあったのか」と電話があり、驚くと同時に愛子さんの心が伝わって、月に向かって手を合わせ感謝しました。

愛子さんを訪ねているうちに、二風谷のもう一人のシャーマンであるアシリ・レラさんともご縁が出来ました。レラさんが二風谷で神祭りをしていた時、相馬村のメノコさんが出てきて「祀って欲しい」と言われたとのことで、その年に石戸神社に訪ねて来られました。以来、青森に毎年来ていただいてアイヌの伝承のある場所で祭りを行うようになって、もう十二、三年になります。

また長慶天皇について調べたことが、郷土史に興味を持つきっかけにもなりました。昨年退職した高校での最後の仕事が、勤務地にある亀ヶ岡遺跡の遮光器土偶を、生徒を通じて教科の専門誌に紹介することでした。

法主様からいただいたご縁によって、私の人生がより味わい豊かなものになったと、ふと気付きます。法主様、本当にありがとうございます。

風ぐるま

新たな社会づくりの可能性

— 共同体運動を考える

神戸大学国際化学研究科

田 恩 伊

田さんは、日本でも近年ほとんど大きな関心の対象になっていなかった「共同体」を研究テーマに据え、そこに新しい時代への火種を見つけようとしている稀有な研究者です。彼女は大倭紫陽花邑を含めて、日本の「共同体」を精力的に歩き、論文を発表し鋭い視点を提示しています。(岸田哲)

1990年代の中盤、日本の大学院で白樺派を専攻した後、日本の高校でしばらく講師を務めていた私は、神戸震災の際に急遽帰国、直ちにNHKソウル支局で現地の記者として働くようになった。そして、激動する韓国社会の中心部に立つて、社会変化や動きをその底辺から「見つめる」ことが出来た。しかし、マスコミの仕事を通していくから社会の変化を「見つめて」いても、それが私の中で一体化されないような心地悪さを感じていた。次々と社会の様々問題を追っかけていても依然として、それらの問題は私の外に存在しており、「見つめる」ものがある限界や空しさが常に横たわっていたのである。

そういう意識は、当時韓国で静かに芽生えていた「ある種の社会運動」に私を自然に向かわせてくれた。それは、個人の主体性や自律性をもって他者(人間・自然)と共に安心して帰属できる、新しい「場」と「コモン・ビジョン」を創出しよととする「コミュニティ運動」であった。私が生まれて初めて「共同体(態)」という言葉を自覚

を持って接し始めたのは、この時期からである。この運動は、社会の急激な変動によって生じてきた諸問題などを、ただ現象として「見つめる」だけではなく、自己と一体化した問題として認識し、「今、ここで」積極的に生きようとするものであった。新しい形のゲマインシャフト(共同体)を意図的に構築・創造しようとする運動だとも言えよう。それは様々な類型と規模、そして多様な場所を試みられていた。

このように出現した共同体は、一定の場所を定め「オルタナティブ(対案的)でユートピア」的小集団を形成し、現代が抱えている問題をより積極的に実践として生き、広めようとする。こういう小集団の動きを、従来はユートピア志向の共同体として解釈する立場もあったが、今日これらは、現実世界の中で具現できる明確な目標を設定し、計画的に可視的成果を築いていこうとする。そこには、既存の考え方を超えた新しい家族像が試みられたり、一般社会と一定の緊張関係を保ちながらも一般社会が抱えている様々な問題を包摂し、新しい公共的価値や空間を確保しようとする試みが行われている。いわゆる「社会運動と関わりのあるラディカルなコミュニティ」の出現なのである。これらは国際的なネットワーク作りに積極的な姿勢を持って幅広い連帯をはかる傾向も見せている。

最近、このような共同体運動は新しい「コミュニティ概念」のように認識され、「計画共同体」「人工社会」と訳されることもあるが、これは「インテショナル(意図的)・コミュニティ(Intentional Communities)」という言葉から由来するものである。しかしこの言葉は、実は、日本においてそれほど新しい言葉ではない。私は日本の1960年代以降の共同体運動(当時は「コミュニティ・キプ

ツ・村」という言葉がよく使われた)をも注目し追跡してきたが、日本では1971年に日本の共同体運動雑誌「月刊キプツ」を通して、すでにこの言葉が紹介されていたのである。にもかかわらず、いったん日本の社会から完全に消え去った後、今日再び注目されるようになったのは何故だろうか。言葉は形と認識を結ぶ媒体でもあるからだと考えられる。というのは、社会からある現象が消え去り始めると、その現象を語る言葉も同時に消え去ってしまう傾向がある。1960年代以降、約10年間日本社会のある一部を明確に占めていたように考えられた日本の共同体運動は、1970年代の後半から急激に衰退してしまい、この言葉も陽に当たる機会が少なくなった。「共同体」という日本語そのものさえも一般の人々にとっては、よそよそしい「死語」のようになってしまった。全国に無数の共同体が生まれては消え、また生まれては消え、今日まで継承されている共同体は10を超えないのである。

しかし、今日「インテショナル・コミュニティ」という言葉のもとで、再びこれらの共同体運動が注目されつつある。今日の動きは、よりオープンであり、より多様化したものではあるが、現時代に疑問を投げかけ、今、ここで「オルタナティブ」なライフスタイルを志向する所では、過去の共同体運動と殆ど変わらないものだとは私は考えている。そして、私は過去の共同体運動をふり返ってみながら、非常に個人的ではあるが、ある問題意識に直面する自分の観点を発見する。今日の共同体「運動」がある特定の集団としての共同体「拡大」運動になるのか、あるいは「オルタナティブ」なライフスタイルを生み出し広める「インキュベーター(培養器)」として、「生き続ける」運動になるのか……。

こだまことだま

群馬県安中市・西川 弘二

「襖を、手紙でさせて頂きます。カッコ悪い事も含めて、どうぞ載せて下さい。仮名でなくても構いません。誰か一人でも役に立つかもしれないと言われるなら、こんなうれしい事はないです」

第1信

平成21(09)年3月14日

杉本 順一様

……(略)…… 平成16年9月30日、父が自殺、姉、兄、母とも仲悪くなり、どうにも出来ない気持ちで会わないようになりました。その頃から胸が痛かったり、めまい、手足のしびれがはじめて、タバコをやめても酒をひかえてもだめで、医者2カ所で検査しても正常と言われ、このまま死ぬんだと思いはじめましたが、漢方薬に出会ってひどい状態からは少し脱した程度になりました。

犬の散歩中、中村(孝明)さんと何気なく漢方の話をして交流するようになり、神様や先祖の話をする事になりました。その前は、近くの神社へ行ってお願いをしたり、お経の本・CDなど買ってみたけど難しいなあという位でした。

中村さんによって新皇教宮を知り、月次祭に参加しました。そこで(桜井)節子さんに、家庭の状況を話す事になったのです。「先祖さんが関係しているのかも。聞いてみましょうか?」と言われた時は、体調が良くなるならすがりたいという位の気持ちでしたので、大倭につなげて頂いたもの、「母の先祖さんで精神的に患っている人が、母を頼っている」という内容には半信半疑でした。

お給仕の仕方と、心を添える事などを教えて頂きましたが、忘れる事が多かった。生きている方が中心と思いついてる気持ちがあつたんでしょ

うね。「心を添える」という意味に悩みました。

気持ちのコントロールに波がありながらも、「先祖も自分達とあまり変わらない人として生きて、死んだ後も一緒に居て、その悩みや苦しみが僕の心境に伝わってきているんだ」と単純に思ったら、楽に心を添える事が出来始めました。

母への恨み、親族の不和、世の中への不平不満・ねたみや、学歴や人生への絶望感などがじやましていた事に気付く、「本当の心」に気付いて幸せです。魔がさすような事があれば、人殺しや犯罪などを犯して自殺などという道もあつたかもしれないと思うとゾツとします。

自分をしっかり修めていく力と、反省する心を忘れずにいる努力が必要だと思い始めています。今までは、世間並みに不幸は誰にでもあるんだし、悩むより面倒くさい事は放っておこう、当たりさわりのないよう出来るだけ楽だと思おう方へ生きていこうとしていた道が、実際はイライラしたり腹が立ったり、苦しい方へ余計につまみかかない方へ行っていたんですね。

先祖があつて自分がある事や、自然に対しても浅い感謝しか出来ていなかったのと思い始めてきています。世の中は、神ながらに仕組まれている事に喜びが沢山あるんだなあ、日聖さんの言葉に味が出てきています。疑ってみる事で、いろいろな面からものを見て、心が強くなるのも知りました。どこからか来るものではなく、自分の心で自問自答してゆく事も味なんだと。

何だか体調も、去年の正月辺りは深呼吸が出来ませんでした。今は思いっきり出来るようになりました。子供を連れて家を出て行くと言っていた妻も、「掃除機を買い替えるんだ」と話しかけてきます。どうやら出て行かないようです。

「新聞を読んだ方がいいよ。日聖さんてさあ」

……とが霊界や大倭の事を話し始めると、妻は聞かないふりをして受け止めてはいません。押し付けてはいないつもりでも押し付けていたようです。試しに「先祖の事で読んでもらいたいの、読んでみて下さい」と頼むように言うと、「寝る時、気が向いたら読む」と思いがけない答えがあつたのでうれしくて、枕元に置きました。読んでくれたかどうかは未だ分かりませんが、妻に対しても、頭を下げるのも悪くないなあと思いつつイライラや腹の立つ事が、お互い少なくなっているような気がします。「自分が変わると周りが変わる」という意味が味わえるようになりました。

入院している母のところへも妻や子供と一緒に行く事が増えて、母の状態も落ち着いているのがよく分かり安心しています。今度いつ行くかどうか、何が食べたいかなあ、何を持っていくかなあと会いに行くのが楽しみです。

兄夫婦とも、大倭を通じて仲良くなってきて、去年の夏に(東光大祭)一緒に行き、杉本さんにも挨拶が出来た次第です。

姉がいるのですが、もう4年間会っていません。母を通して東京で元気であるという事、住所も分かっている、手紙と一緒に新聞をいくつか入れて出します。時間がかかるかもしれませんが、仲良くしていこうと思います、せつかくきょうだいでして生まれきたのだから。

毎日先祖に感謝し、中村家、節子さん、杉本さん、日聖さん、この土地の守護霊である新皇教宮の将玄坊さんに感謝しながら暮らしております。

第2信の

平成21(09)年4月6日

月に平均8回、路線運行の仕事で、大型車に高崎で荷積みをして、京都、北大阪、東大阪、淀川へ荷下ろしを行っています。朝、東大阪から生駒

山の方へ奈母太加天腹をさせて頂き幸せです。月次祭や禊会に参加して交流を持ちたいなあと思いますが、近くまで行って交流のしなかなか行けるものではないですね。行ける時は行けるんだからと、この歯がゆさを楽しみながら神ながらに任せてみます。

父(S16生)と母(S19生)との間に、長女(S41生)、長男(S42生)、次男、私(S48生)の5人家族で育ちました。父は千葉県鴨川市生まれ。中学を卒業してすぐに群馬県に単身で働きにきていた間に、母と知り合いました。その後、母の実家である(多野郡)吉井町の近くで暮らす事になったとの事です。

僕が小学校5年生の時に、リーダー格の友達と不仲になり、裏で「西川は生意気だからしやべつたり遊んだりするな」と手を回しているよ、他の友達から知らされ、「文句あるなら直接言えよ」と言っても無視をされました。男子のみですが集団無視という経験をしました。中学校に上がると普通になりましたが、ちがう小学校からの子も合流したという理由がもしれません。

その頃から、体の軽い不調を理由に不登校で、半分以上行きませんでした。中2になると友達のお兄さんなどに憧れてタバコやバイクを遊びの道具として遊びほうけていました。母親の顔を見る度に「金をくれえ」と挨拶代わりに言い、足りなくなると神社の賽銭も「出世返しするから、すんませんね」なんて言いながら使いました。大倭を知り、神様はお金が要らなかつたのかとホツとしながらも、出世はしてないけど「足りないかもしませんが」と返して、お酒とお祈りでお詫びを申してきました。お店でとってしまった事は謝りに行く勇気がありませんので心で詫びてます。中学を卒業して働き始めましたが、遅刻・欠勤

が多く、職場のせいにしてたりつまらないからという理由で職を転々としました。シンナーを覚え仕事でも吸いたくて、バイク(どこの誰のものか分からない)に乗っている時もスーパの袋の手提げ部分を耳にかけて吸いながら暴走していました。遊び仲間が集まれば、悪い先輩も寄ってきて金づる状態になり、言う事を聞かなければ殴られました。遊び仲間が逆じゃなくてよかつたなあという思いはありました。

何とか悪い先輩から離れて、平成4年に彼女とできちゃった婚、平成5年3月に長女が生まれました。結婚式で父はスピーチの時に一言も言えませんでした。「挨拶もできねえのか。だから家も持てねえし町営住宅にしか住めねえんだよ。情けねえな。ばかやろ」と、僕は言い過ぎだと思いが言っているのに、言い返してきませんでした。今思うと本当は、僕は殴られてもいいから分り合いたかつたのかもしれません。

結婚しても相変わらずに好き勝手な事をやっています。ローンを組めるだけ借りてバイクを何台も乗り換え外車にも乗り、20歳を過ぎるとマルチ商法をいくつもやり、金持ちがえらいと思うようになり、やった者勝ちの心境でした。友達に誘いに乗ってナンパして女性と遊んでいました。

その頃、父が吐血し入院して、精神科へかかりました。妻が「実家に帰る」と言うので、「勝手にどうぞ」と話し合いません。自分の事を棚に上げるように振るまっています。ですが、実際1人になつてみると子供に会いたくて、一方的に「子供は俺がみる」と言い出して、離婚して姓の変わった子供と2人で暮らし始めました。(妻が付き合いた男性に、因縁をふっかけてお金を取ってしまいました。情けない)

運転手の仕事で、何日か隣に連れて回して、子供がつかいし自分もつかいなので、近くの保育園を訪ねたところ、朝7時〜夜7時までと言うのでお願いしました。その時に(今考えたらひどいですが、「パパとママとどっちといたい?」と聞き、「パパもいたい」と言ってくれたという勝手な思い込みで、子供を自分のもの扱いしていました。仕事の合間にスーパーで買物したり洗濯しに帰ってきたり、何とかやりこなしていました。「親で大変だなあ。でも思い通りになる人生が必ず来る」と信じながら、複雑な心境もありました。

会社内でストーカーをしていた上司に因縁をふっかけて正義をダシにして金を取ったり、会社の燃料を自分の物のように自分の車に入れたりしていました。子供が大きくなるにつれ「悪い事しちやだめ」というような事もポツリポツリ言うので、自分のしている事が苦しいようになり止めました。

3カ月ほどした頃、子供に熱があり、心配しながらも保育園に預けました。夕方、迎えに行くと食欲がなく、家に帰って早く寝かしました。「どこでもいい、パパとママと一緒にいたい」とぐずるのです。子供ながらに、言い過ぎると僕が怒ると思つて、それだけ言うのを汗をかいて寝ていました。そこから「このままでいいの?」と自問自答……。とにかく次の日に保育園は無理そうなので妻に連絡を入れて、「できるなら帰って、子供をみてやってくれ。俺の事はいいから、娘が大きくなるまでお互いガマンしよう」と告げてみると、「好きで帰るんじゃないから」と言われました。妻の相手の男性には「俺はどうすればいいんだ?」と言われ、「来るならいつでも来い!」というような場面もありました。(続く)

あじさい日記

5月11日 埼玉県熊谷市の大倭会会員梅澤弘さんが帰幽されました。

5月13日 インターネットを通じて『おおやまと』編集部員の守谷明宏さん(北海道小樽市)が来邑して交流の家に1泊。地元編集部と夕食会をしました。
5月14日 大倭病院駐車場、「看護の日のイベント」。晴天に恵まれ、来られた方は160人超。「健康チェック」として骨密度測定・血管年齢・血圧測定・身長体重測定等、「健康相談」も行われました。



5月15日 大倭神宮月次祭
5月16日 夜、交流の家でF I W C定例委員会に参加者3人、愛生園にあった高校新良田教室第一期生の同窓会(22)25日の予定だった)も延期、ここにも

新型インフルエンザの影響。

5月17日 第302回大倭会文化行事。新型インフルエンザに加え雨の中、参加者は13人(内2人子供)。宝塚の清荒神、清澄寺という平安時代以来の信仰の地と、宝塚大劇場前を通過してモダンな手塚治虫記念館へと回り、清遊しました。



5月23日 大倭大本宮月次祭
この日は昭和38年5月の月次祭法話をお聞きしました。
5月29日 午後2時から大倭病院会議室において、大倭病院並びに宗教学人大倭大本宮の平成20年度決算役員会。

この日、ホトトギスの鳴き声、また鏡池の黄色の睡蓮が開花。
5月30日 拝殿の正面に向かって右側にあった2本目の枯れ松が梅の木の上に倒れました。実が落ちた程度、周辺には支障なく……。解体のため教長さんが清めの挨拶をされました。
6月4日 早朝、鏡池に翡翠。

6月6日 大倭神宮月次祭。

夜、大倭会館で邑倭の会。6月7日 子供12人(よく働いて遊んだ!)を含め初体験・リピーター・常連の参加者45人で田植えをしました。曇って涼しい間に植え終え、午後の宴会の頃には晴れて、のんびりした気持ちの良いひと時でした。昇ちゃんはずいぶん歩いた。この頃なぜか自転車に乗りません。



6月9日 夜、教務本庁で本紙編集会議。紫陽花邑に住んで3年、福井市に帰郷することにな

つた齋藤正宏さんが、その直前で出席。今後モ法話等のデジタル化の整理は続けて頂きます。

大倭安宿苑では
6月7日 初めて菅原園の交流ホールを使い、第31回卓球大会。各施設から60名以上の参加者がありました。
(菅原園)
5月24日 車椅子50m走やスラローム、ピンバック投げ、卓球等の種目で第1回菅原園スポーツ大会を行いました。
(須加宮寮)
5月15日 お楽しみ外出で大阪のインスタントラーメン発明記念館へ。その後、アクアライナーに乗りました。
(長雷宮寮)
5月11日 春の歌と合間に小話を交えて、音楽クラブ。
5月20日 (デイサービス)カーネーションやかすみ草でフラワーアレンジメント。
(茂毛路園)
5月30日 家族懇話会を開催

(八重垣園)

投句箱より、「揚羽蝶飛鳥美人の化身と也」

俳句の風物 上田森彦(99歳)
新緑の庭より靴を脱ぎ上る 山口誓子

動めから帰ってもまだ明るく、我が家の新緑に気付く。ついでに回ってそのまま上った。新緑の路地深うして人気なき 森彦

あんない

* 月次祭(大倭神宮)

7月6日(月) 午後2時より大倭神宮にて。

* 大倭会主催第四八六回祝会
7月12日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

* 月次祭(大倭神宮)

7月15日(水) 午後2時より大倭神宮にて。

* 月次祭(大本宮)

7月23日(木) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

田んぼ通信
草取りのご案内
今年も草取りに皆さんのお力を
お借りしたいと思います。
よろしくご協力下さい。

7月5日(日)

午前9:00~(雨天順延)

- * 午前中を予定しています。
- * 泥で汚れてもいい服装で。(着替え、タオル各自で準備)
- 軍手: 軍足は用意します。
- * 昼食・軽食・飲み物は用意します。

連絡先: 玄徳院
TEL 0742-41-4615

第33回
大倭安宿苑
夏まつり

7月25日(土)

午後3時~

於 あすか第1駐車場にて

お問合せ/安宿苑事務局(担当 小松)
TEL 0742-48-3221

不用品バザーも行いますので、
ご寄贈のほど
よろしくお願ひします。